みどりを育む

横造協だより

発　行　Vol.46
一般社団法人　横浜市造園協会
緑の諮問委員会
横浜市中区相生町6-104　横浜相生町ビル３階
TEL 045-662-9897　FAX 045-664-5633
http://www.yokohamashizoen.or.jp

はじめに

横浜市環境創造局長の遠藤賢也でございます。本年４月に横浜市の環境行政の中心を担う局の長となり、身の引き締まる思いで邁進しております。かけがえのない環境を未来に引き継ぐためにも、これまで市民や事業者の皆様と連携して進めてきた、花と緑にあふれる環境先進都市の実現に向けた取組を一層押し進めていきたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

横浜市造園協会の皆様におかれましては、横浜市の都市の価値を高める、質の高い緑の創出や維持管理に多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

近年は、大型台風や局地的な大雨による未曾有の風水害が多発しており、今年も日本全国で様々な災害が発生しています。特に令和元年度に立て続けに上陸した台風15号、19号による被害は記憶に新しいところです。協会の皆様におかれましては、昼夜問わず緊急対応にあたって頂いたほか、迅速な復旧作業等にご尽力いただき改めて深く感謝申し上げます。

さて、今年度の上半期は、公園新設・再整備について二つのトピックがありました。本年７月26日には、本牧市民公園内にある「上海横浜友好園」の老朽化に伴う改修工事が完了し、リニューアルオープンしました。今回の改修では、橋の耐震補強、建築物や門、塀の解体復元や、バリアフリー対応などを行いました。また、主屋である「玉蘭庁」では解説等の展示や休憩用のテーブル等を設置し、本牧市民公園における新たな魅力として生まれ変わりました。

また、本年７月30日には、米軍の貯油施設跡地に、複合遊具や健康遊具、トイレ等を整備し、小柴自然公園の第一期エリアの一部を公開し、地域の方々に喜ばれています。全面開園は令和14年（２０３２年）を予定しており、今後も計画的に事業を進めてまいりますので、協会の皆様におかれましても、引き続きご協力をお願い申し上げます。

上海横浜友好園（本牧市民公園内）

横浜の魅力向上と国際園芸博覧会の開催に向けて

横浜市環境創造局長　遠藤　賢也

コロナ禍における緑や公園

昨年度から続いている新型コロナウィルス感染症の拡大は、イベントの規模縮小や中止、施設の閉鎖など、市民生活や社会経済活動へ大きな影響をもたらしました。人々の行動が大きく制限された一方、身近な緑や公園の価値が改めて高まっており、市民の安らぎや憩いの場として大変重要な役割を果たしています。コロナ禍においても、緑や公園が良好に保たれ、市民が安心して利用できていることは、ひとえに協会の皆様のご尽力の賜物であると認識しています。

一年延期となった東京２０２０オリンピック・パラリンピックが９月に終了しました。残念ながら無観客での開催となりましたが、横浜スタジアムでは野球・ソフトボール競技が、横浜国際総合競技場では男子・女子サッカー競技が行われました。協会の皆様には、各会場の周辺エリア等において、植栽・修景に関する高い技術力によって、色とりどりの花壇や潤いある街路空間を創出していただき、大会の成功に花を添えていただきました。試合会場の整備のみならず、様々なかたちで大会運営、機運醸成にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

また、コロナ禍における「ガーデンネックレス横浜」では、協会の皆様をはじめとする様々な企業・市民の方々との連携により、徹底した感染症対策のもと、開催することができました。みなとエリアでは、山下公園や日本大通りなどにおいて、多くの方に花や緑で彩られた横浜らしい風景をお楽しみいただきました。

また、春の里山ガーデンフェスタでは過去最多となる約17万人もの方にご来場いただきました。秋の里山ガーデンは、緊急事態宣言の延長を受け、やむなく中止とさせていただきましたが、ガーデンネックレス横浜公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルやＩｎｓｔａｇｒａｍで花壇の様子などを発信し、市民だけでなく多くの皆様に気軽にご覧いただくことができました。今後も横浜の花と緑の魅力を、様々な手法を取り入れて発信してまいりますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

横浜の魅力向上に向けて

緑や公園には、コロナ禍で改めて見直された「心身の健康を保つ」という役割に加え、まちの賑わいや活力の創出、環境保全、防災・減災といった多様な機能があり、都市になくてはならないインフラとして適切な維持管理を行うとともに、一層の利活用を推進していくことが重要です。

利活用に当たっては、優れたノウハウやアイデアを持った多様な主体とこれまで以上に連携する必要があります。そこで、環境創造局では、令和元年度に「公園における公民連携に関する基本方針」を策定しました。

基本方針では、これからの公園行政において公園経営の視点を持ち、「利用者の満足度向上」と「維持・管理の効率性向上」を目指していくことや、公民連携の基本理念として、多様な主体間の連携による公園の魅力アップ等を掲げています。今後、基本方針に基づき、公民連携の取組を進めることで、公園の魅力アップによる市民生活の質的向上と都市の持続可能な成長につなげ、更には「公園から」横浜のブランド力が向上することを目指してまいります。

国際園芸博覧会に向けて

旧上瀬谷通信施設において開催される国際園芸博覧会は、国際園芸家協会（ＡＩＰＨ）の承認及び博覧会国際事務局（ＢＩＥ）の認定を受けて開催されるＡ１（最高クラス）の国際的な博覧会であり、国内では１９９０年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会(花の万博)」以来となります。

横浜市としても、国際園芸博覧会のレガシーを継承する「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園」の整備を進めてまいります。また、「ガーデンネックレス横浜」などを通じて機運醸成を図りつつ、引き続き農林水産省や国土交通省をはじめとする関係機関等と連携しながら進めていきたいと考えています。

協会の皆様におかれましても、公園整備をはじめ、博覧会の開催等において、その高い技術力を遺憾なく発揮していただくことを期待しています。

結びとなりますが、これまで市民・事業者の皆様と守り育んできた緑や公園は、人々の生活に安らぎをもたらし、まちに潤いと活気を生む、かけがえのない財産です。これら貴重な財産を次世代に継承するとともに、花や緑による新たな都市の魅力を創出していくためには、協会の皆様のお力添えが欠かせません。引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

国際園芸博覧会　イメージ図

【略　歴】

平成４年４月	横浜市入庁
平成30年４月	環境創造局　下水道管路部長
令和２年４月	環境創造局　政策調整部長
令和３年４月	環境創造局長

第44回通常総会を開催

5月26日メルヴェーユにおいて第44回通常総会を開催。左記議案について審議し全て承認された。

令和2年度決算報告（案）の件
第3号議案
令和3・4年度会費基準（案）の件
第4号議案
令和3・4年度役員改選（案）の件

《報告事項》
第1号
令和3年度事業計画の件
第2号
令和3年度収支予算の件
退任監事　吉田直治
就任監事　秋山みどり

《承認事項》
第1号議案
令和2年度事業報告（案）の件
第2号議案

総会終了後、「2027横浜国際園芸博覧会の取組状況について」横浜市都市整備局上瀬谷整備・国際園芸博覧会推進室長　曽我幸治様からご講演をいただいた。

また、「ハマの緑を育むつどい」については開催を見送った。

令和3・4年度　役員

曽我室長ご講演

令和3・4年度　各委員会組織表（順不同）

委員会	担当理事	委員長	副委員長	委員
総務	樋熊浩明	杉本健一	高橋　卓 村田典生 北村善輝 小菅勇一	生駒　順・佐藤幸樹・真田達夫 斉藤正昭・相澤正章
技術	山田裕之	石黒　毅	笠原和弘	青木洋一・間渕武志・村形竜一 岸　聡志・吉田貴司・石田力也
安全	永吉克哲	小山田照蔵	根岸成年 藤白幸一	小原邦和・髙木憲夫・牧野幸太 福岡栄治・倉本　潤・瀧川佳広 相澤　剛・植草唯一
緑の諮問	土志田淳	越川雅彦	生駒武則 佐々木伸	小林新一・相澤升平・田野井章 荒井隆佑・鍵和田大輔
特別（国際園芸博覧会）	藤巻慎司	越川雅彦	渡邊秀一 生駒武則	坂田　宏・田口英明・永吉克哲 粟飯原吉伸・土志田淳 樋熊浩明・山田裕之・小林新一 相澤升平・田野井章・荒井隆佑 鍵和田大輔・佐々木伸

令和3・4年度　役員名簿

役職名	氏名	事業所名
顧問	藤巻司郎	藤造園建設㈱
相談役	生駒隆一	生駒造園土木㈱
会長	田澤重幸	㈱田澤園
副会長	矢部　均	㈱三橋緑化興業
〃	藤巻慎司	藤造園建設㈱
専務理事	上原啓史	事務局
理事	坂田　宏	㈱サカタのタネ
〃	田口英明	田口園芸㈱
〃	永吉克哲	㈱永吉緑化
〃	粟飯原吉伸	㈱濱田園
〃	渡邊秀一	横浜植木㈱
〃	土志田淳	横浜庭苑㈱
〃	樋熊浩明	横浜緑地㈱
〃	山田裕之	㈱ワールドグリーンメンテナンス
監事	石井直樹	石井造園㈱
〃	秋山みどり	冨士造園㈱

令和3年度　横浜市環境創造局事業概要等説明会を開催

4月15日メルヴェーユにおいて令和3年度横浜市環境創造局事業概要等説明会を開催した。

環境創造局挨拶
みどりアップ推進担当理事
橋本健様

環境創造局予算概要
みどりアップ推進課長
坂井和洋様

国際園芸博覧会に向けた取組と予算概要
都市整備局国際園芸博覧会推進部長　工藤哲史様

旧上瀬谷通信施設跡地公園について
公園緑地整備課上瀬谷担当課長　佐藤智也様

ガーデンネックレス横浜2021

みどりアップ計画における助成事業等の取組
みどりアップ推進課担当課長　小田嶋鉄朗様

出席者　44名

橋本みどりアップ理事ご挨拶

横浜市都市整備局上瀬谷整備・国際園芸博覧会推進室

国際園芸博覧会推進事業の取組状況

横浜市では、旧上瀬谷通信施設（旭区・瀬谷区）において、2027年に「幸せを創る明日の風景」をテーマとした国際園芸博覧会（A1クラス）を開催するための取組を進めています。

昨年度、農林水産省及び国土交通省は、国際園芸博覧会の計画案について充実すべき事項等を検討、助言するために有識者からなる「横浜国際園芸博覧会具体化検討会」を設置しました。検討会は計3回開催され、パブリックコメントにおける意見を踏まえて5月に報告書が取りまとめられました。その後、6月22日に開催された国の閣議において、BIE（博覧会国際事務局）への申請手続きを進めることと等が了解されました。

〈閣議了解の概要〉

①横浜市における国際園芸博覧会を2027年に開催することとし、BIEへの申請手続きを進める。

②開催申請を行うにあたり、国・関係地方公共団体・民間が協力して、その準備を進めるものとし、現下の厳しい財政事情を踏まえ、以下の方針を確認する。

・今後具体的な計画の策定に当たっては、国際園芸博覧会として適正な規模・質としつつ、費用の観点から効率性を追求する。

・会場建設費は、国と地方自治体と民間が1：1：1の割合で負担する。

・会場運営費は、適正な入場料の設定等により賄う。等

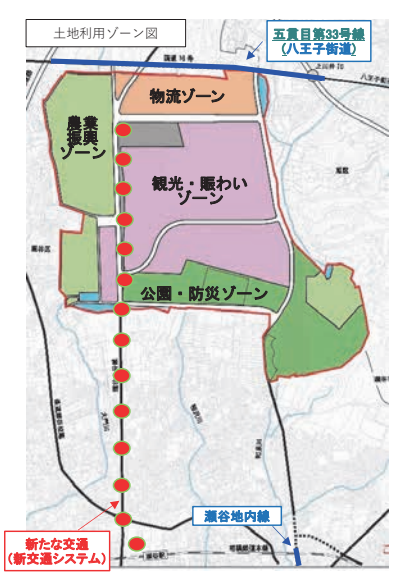
11月には博覧会の準備及び開催運営等を行う「一般社団法人2027年国際園芸博覧会協会」が設立されます。

今後、令和4年6月の閣議決定・BIE申請を目指し、協会・国と一体となって取り組んでいきます。

また、AIPH（国際園芸家協会）の博覧会委員会において、半年に一度進捗報告を行っています。10月19日にオンラインで開催されたAIPH博覧会委員会では、前回（2021年3月）からの進捗として会場計画やコンテンツ案の検討状況等について報告を行いました。詳しくは、横浜市の記者発表をご参照ください。

広報PRの取組では、推進ロゴマークPR事業に10月現在51社の方にご協力いただいています。8月からは相鉄線・みなとみらい線の駅係員等の皆さんが、推進ロゴマークのバッチをつけてPRにご協力いただいています。また、キリンビール株式会社・キリンビバレッジ株式会社からは推進ロゴマークが入った国際園芸博覧会応援デザインの「キリン一番搾り」と「生茶デカフェ」が発売されました。そのほか、多くの企業・団体の皆様に名刺や工事看板にロゴマークを印刷していただく事でPRにご協力をいただいています。推進ロゴマークPR事業では引き続き、ご協力いただける方を募集しています。詳しくは、2027国際園芸博覧会推進委員会のウェブサイトをご参照ください。

2027横浜
国際園芸博覧会



土地区画整理事業（まちづくり）及び新たな交通の導入等の取組状況

一方、土地区画整理事業については、個別面談等で地権者の意向確認を行いながら、農業振興ゾーンや観光・賑わいゾーン等の具体的な土地利用について地権者の皆様と検討を進めるとともに、都市計画や環境影響評価の手続を進めています。引き続き、地権者の皆様と意見交換等を行いながら、土地利用の検討を深度化し、令和4年度の工事着手を目指し、地権者の合意形成等を進めていきます。

新たな交通の導入については、事業内容の確定に向けて、路線計画や構造物の検討、事業スキームの整理を行い、軌道法の特許申請に向けた取組を進めています。周辺道路整備のうち、八王子街道については、拡幅整備に向け、詳細設計及び用地取得に向けた調査を実施しています。また、瀬谷地内線については、詳細設計及び用地取得のための調整を進めています。

樹木に魅せられて（第41回）

暮らしの中にある身近な自然

横浜市政策局政策課　担当係長
池上 佑里

身近な自然の恩恵

私が好きな動物写真家の星野道夫さんのエッセイに、身近な自然と奥深い自然の2つの自然があることが人にとって大切という話があります。身近に自然があることで、人は感受性を持ち合わせ、奥深い自然にも想いを馳せることができる、そのことは人間の暮らしを豊かにしてくれる存在であると書いています。

そのような身近な自然から受ける恵みがこのコロナ禍で、さらに実感されることになったと思います。令和2年度の横浜市の市民意識調査で、今後の横浜に期待することの第2位が「豊かな自然がある」でした。私自身も昨年度まで在籍していた公園緑地維持課で、市内の公園や緑地の利用が非常に増えた現状を目の当たりにし、横浜市造園協会の皆様にもご協力をいただきながら、様々な対応をさせていただきました。

このような、新しい感染症の発生や地球温暖化による気候変動、またそれに伴う災害リスクの増加など、今日の不確実性の高い環境下において、身近な自然を守り、創っていくことは、我々の生活をハード面から守るだけでなく、ソフト面、すなわち心の豊かさを守っていく上でも非常に重要だと感じます。これこそ、身近な自然を相手に仕事をしている私たち造園に携わるものに課せられた使命と言えるのではないでしょうか。

保全生態学の研究

私は、こどもの時から動物が好きで、小学生の時は、ムササビの観察をしに関東近郊の森にしばしば通っていました。その後、それらの野生動物や生き物を守るには、その生息環境を守る必要があるという想いから、大学院では保全生態学の研究室で、湿地の保全に関する研究をしていました。茨城県の谷戸の耕作放棄水田の植生の研究でしたが、野犬に追いかけられたり、マムシを踏みそうになりながら、調査したことを懐かしく感じます。

市民の森で秋を感じる

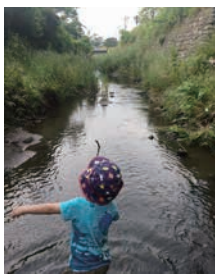
横浜市に入庁して

横浜市に入庁してからは、現みどりアップ推進課で開発時の提供公園や緑化の指導に携わりました。みなとみらいの土地区画整理事業の最後の提供公園であった、高島水際線公園の協議では、潮入りの池という帷子川の水を引き入れ干満の差を利用して、干潟環境を再生するという内容に携わることができ、とても興味深いものでした。

その後、旭土木事務所で身近な公園の維持管理、改修工事に携わりました。公園内の樹林地の維持管理に対し、保全管理計画を立てて、愛護会の皆様と笹や外来種の除伐作業を行い、その後スミレや希少種の生育が見られるようになり、近隣の方から環境が良くなったと言われた経験は、都市における樹木や樹林地管理の大変さ、丁寧に行うことの必要性を認識することにつながりました。

公園維持管理の多様さ

公園緑地維持課では、公園内の橋やトンネルの近接目視点検の実施や、造園協会の皆様にご協力いただき、災害時における崖の点検の業務に携わりました。改めて、公園の維持管理の多様さ、奥深さ、そこに直結する市民の方への安全安心の重要性を再認識しました。現在は政策局において、市の総合計画である中期計画の業務等に携わっています。



水辺に親しむ

横浜は、大都市でありながら、身近に自然の恵みを享受できる都市であると感じます。私は市内在住ですが、週末は近くの市民の森や水辺を散策し四季の移ろいを感じ、身近な公園で子供とボール遊びや虫取りをし、近所の直売所で採れたての野菜を買って帰るという生活をしたい時にしています。このような自然の恵みを遠い場所に行かなくても日々の暮らしの中で体現できることは素晴らしいことだと感じます。

このような都市の魅力をさらに高めて、誰もが心豊かに暮せる横浜を作っていきたいという想いで、皆様と一緒にこれからも仕事に取り組んでいきたいと思います。

労働安全衛生大会を開催

7月28日　メルヴェーユにて令和3年度労働安全衛生大会を、感染症対策を徹底し開催した。

安全講話
横浜南労働基準監督署長
河野　治子　様

事故事例報告
横浜市環境創造局
技術監理課　担当課長
大窪　和人　様

安全対策講習会
東京電力パワーグリッド㈱
神奈川総支社
送電保守グループ
保守リーダー
磯　憲一郎　様
横浜中制御所
配電保守グループ
保守リーダー
前島　浩二　様

ご来賓
横浜南労働基準監督署長
河野　治子　様
横浜市環境創造局長
遠藤　賢也　様
横浜市道路局　道路部長
山浦　善宏　様
横浜市財政局公共施設・事業調整室長
鈴木　健一　様
他　9名

出席者　55名（会員）

令和3年度最優秀標語

安全は、いつでもどこでも最優先
みんなで目指すゼロ災害

東都造園㈱　相澤 佳奈枝

■優秀賞
㈱三橋緑化興業　藤田　信一
㈱みやした園芸　辰本　正
㈱きたむら園　北村　善輝
㈱ワールドグリーンメンテナンス　橋本　喜之

委託安全パトロールを実施

実施日時：7月14日
実施案件：公園維持業務委託（旭区）
街路樹維持業務委託（金沢区・栄区・都筑区）

実施結果

優良事項
・飲料水以外のクールダウン用の水が確保されていた。
・携帯している薬品の一覧表があり、必要な薬品で不足があるか確認できるようになっていた。
・バッテリー式の機械を使用していた。
・簡易トイレが設置されていた。
・新規入場者教育終了シールを用意し、修了者が明確にできていた。
・KYシートをマグネットで車体に張り出し、進捗次第で加筆できるようになっていた。
・高木剪定時にチャップスを着用していた。

軽微な指摘事項
・乗用作業機械の輪止めが不十分だった。
・作業車両周りの安全管理が不十分だった。
・使用していない（終わった）草刈り機がカバーせずに置かれていた。
・規制帯から出て作業をしていた。
・ガソリンの携行缶が閉め切った作業車両の車内に置かれていた。

総評
・輪止めの設置について
塵芥車など作業車両及び乗用作業機械は、作業時・停車時・平地・傾斜地に係らず輪止めを設置し、安全管理の一環とし、事故防止に努める。
・作業機械などの燃料（ガソリン、混合油）の保管・取り扱いについては必ずガソリン用携行缶を使用する。（UNマーク等の国際基準品）また、夏場の気温上昇に伴い直射日光の当たる場所などを避け、適切な場所に保管する。

会員の皆様には以上の事柄について、改めて全ての作業従事者へ周知をお願いしたい。

よこはま花と緑のスプリングフェア2021「花壇展」

当協会が協賛している「よこはま花と緑のスプリングフェア2021 花壇展」が、会員及び横浜農業協同組合に出展のご協力を頂き4月9日～5月5日の27日間、山下公園で開催された。

期間中は20区画の彩り豊かな花壇が山下公園を訪れる人々を出迎えた。アンケートにご協力いただいた方に堆肥のプレゼントを行った。

また、会場の花と緑の園芸店では花苗を販売した。

花壇展はお陰様で今回58回目を迎えた。

【出展社】
（受賞社を除く）
㈱牧野造園・㈱貝塚造園・㈲ウィステリアグリーン・㈱小菅造園・㈱春峰園・岩崎造園㈱・二代産業㈱・㈱みやした園芸・三和造園土木㈱・㈱福岡造園・一造園土木㈱・サカタのタネグリーンサービス㈱・㈱港薬品造園

【横浜市会議長賞】
横浜農業協同組合　「未来に向けて」

【横浜市長賞】
㈱田澤園　「里のかほり」

【(公財)横浜市緑の協会理事長賞】
【市民賞】
㈱濱田園　「希望」

【横浜市環境創造局長賞】
横浜緑地㈱　「みんなつながっている」

花と緑の園芸店

【神奈川新聞社賞】
㈱植勘　「自然のめぐみ」

【みどりアップ奨励賞】
藤沢造園㈱　「夢を信じて」

【(一社)横浜市造園協会会長賞】
㈲細野植産　「小人の家」

横浜市造園技術交流会「造園技術伝承研修会」（竹垣：建仁寺垣）開催

3月27日から開催されていた「ガーデンネックレス横浜2021」の開催地の一つである横浜公園内彼我庭園において、造園技術伝承研修会竹垣作成を研修形式で開催した。

【日程】 5月19日・20日
【会場】 横浜公園内　彼我庭園
【共催者】 横浜市環境創造局
【趣旨・目的】 日本古来の作庭技術のひとつである「竹垣（建仁寺垣）」の技法の伝承

【講師】 大胡周一郎氏
【対象者】 会員・横浜市職員
【参加者】 ・会　員　38名
・横浜市職員　6名
【実施内容】 建仁寺垣作成実習（4間×8班　計32間作成）

第38回全国都市緑化くまもとフェア

2022年3月19日から5月22日の65日間熊本市内の3つのメイン会場と、県内全ての市町村がパートナー会場となり「第38回全国都市緑化くまもとフェア」が開催される。

横浜市から当協会へ県外自治体PR花壇の出展について参加協力依頼があり、当協会は、デザインを会員から募集しコンペを行い、施工社を決定する。

また、今回から「ガーデンネックレス横浜」と2027年開催の「横浜国際園芸博覧会」のPRを併せた共同出展となるため、区画面積も従来に比べ倍の50㎡となり、フェアを引き立つ花壇を設置する。

詳しいスケジュール・イベント内容は
くまもと花とみどりの博覧会2022ホームページまで
くまもと花とみどりの博覧会　検索　https://kumaryokkafair.com